図 5.7-6　啓発用パンフレット　2～3 ページ

5.7.5 今後の広報活動に向けて

本年度は、漂流・漂着ゴミの発生抑制につながる広報活動として、中高校生向けおよび大人向けの体験型啓発活動プログラムを作成し、実施した。また、体験型啓発活動は効果が高いと考えられるものの、その実施には多くのマンパワーと費用を必要とすることから、カバーできる対象者数には限界があり、これを補完するものとして、啓発用のパンフレットについて検討を行い、案を作成した。

5.7.3(3)項で考察したように、今回実施したような体験型の啓発活動への参加は、中学生および大人とも、漂着ゴミに対する関心の向上に加え、自らのゴミ捨ての抑制、清掃活動への参加意欲向上という行動変容の効果があると推察された。

一般的に子供の頃からの環境教育が大切であると言われており、九頭竜川流域ワークショップにおいても、子供たちへの環境教育の実施を求める意見が複数あった。これは、大人の行動を変えるよりも、子供の行動を変える方が容易であると考えられているためであろう。しかしながら、環境心理学の分野では、子供のごみ減量行動は親の行動に大きく影響されることが明らかとされており（図 5.7-7)、大人に対する啓発活動を行って大人の行動を変えることを抜きにして、子供だけに啓発活動を行っても効果が薄いことが示唆される。

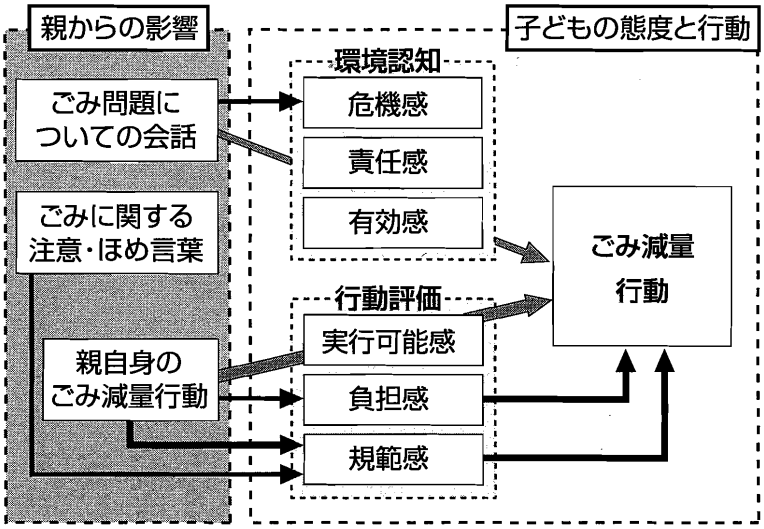

図 5.7-7　子供のゴミ減量行動に対する親からの影響（依藤，2004）[28]

このため、体験型啓発活動は子供に重点をおいて実施するのではなく、子供と大人の両方を対象として実施することが望ましいと考えられた。

上記で述べてきた体験型啓発活動の促進・補完のため、表 5.7-5 に示すような活動の実施が必要であろう。手段としては、環境省の漂流･漂着ゴミに関連するホームページを活用して、以下のような機能を持たせることが現実的と思われる。

---

[28] 依藤佳世，2004，子どもは親の背を見て育つ．市民がつくるごみ読本 C&G，No.8，28-31.

表 5.7-5　体験型啓発活動の促進・補完のための活動

対象者	目的・内容
各地で活動に取り組んでいる人々	各団体の取組み（クリーンアップやイベントなど）を紹介するコーナーを用意し、とくに地域での連携を強められるようにする。各団体に自ら記載してもらえるシステムとする。 参加人数やゴミの処理量などがあれば、社会一般に向けての社会的利益の提示や社会的規範の共有にもつながる。
体験型活動に参加した人々	参加者の取組みを社会一般に伝えることにより、それが社会的に望まれているものであり、社会的利益につながると認識させ、行動の継続に寄与する。 真の対象者は参加者である一方、社会全体に向けて発信することが必要である。
体験型活動に参加する可能性のある人々	参加を促すための情報提供 ※ローカルメディアや人的つながりを介した働きかけの併用が必要
体験型活動に参加するほどではないが多少の関心がある人々	基礎的な事項の情報提供

（平成 19 年度報告書より）

5.8 九頭竜川流域ゴミ問題ワークショップ開催の検討

5.8.1 目的

漂流・漂着ゴミ問題の取り組みにあたっては、関係者の情報交換の場を設置し、ネットワーク化を進めていくことが重要である。全国レベルにおける連携強化のみならず、地域レベルにおける連携強化も重要な課題であり、とくに近傍の河川がゴミの発生源となっている可能性のある地域においては、河川流域全体の関係者の連携を強化することが有効である。本調査では、河川流域における NPO/NGO および自治体が一同に会し情報交換をする場の設置可能性について検討し、平成 20 年度の流域ゴミ問題ワークショップ開催に資することを目的とした。調査の概要を図 5.8-1 に示す。

5.8.2 調査内容

平成 19 年度の調査結果を踏まえて、福井県九頭竜川流域を対象として流域ゴミ問題ワークショップの準備を進めた。ワークショップは平成 20 年 11 月に開催し、参加者の有する知見やノウハウを共有するとともに、流域のゴミ問題に関する課題について議論した。

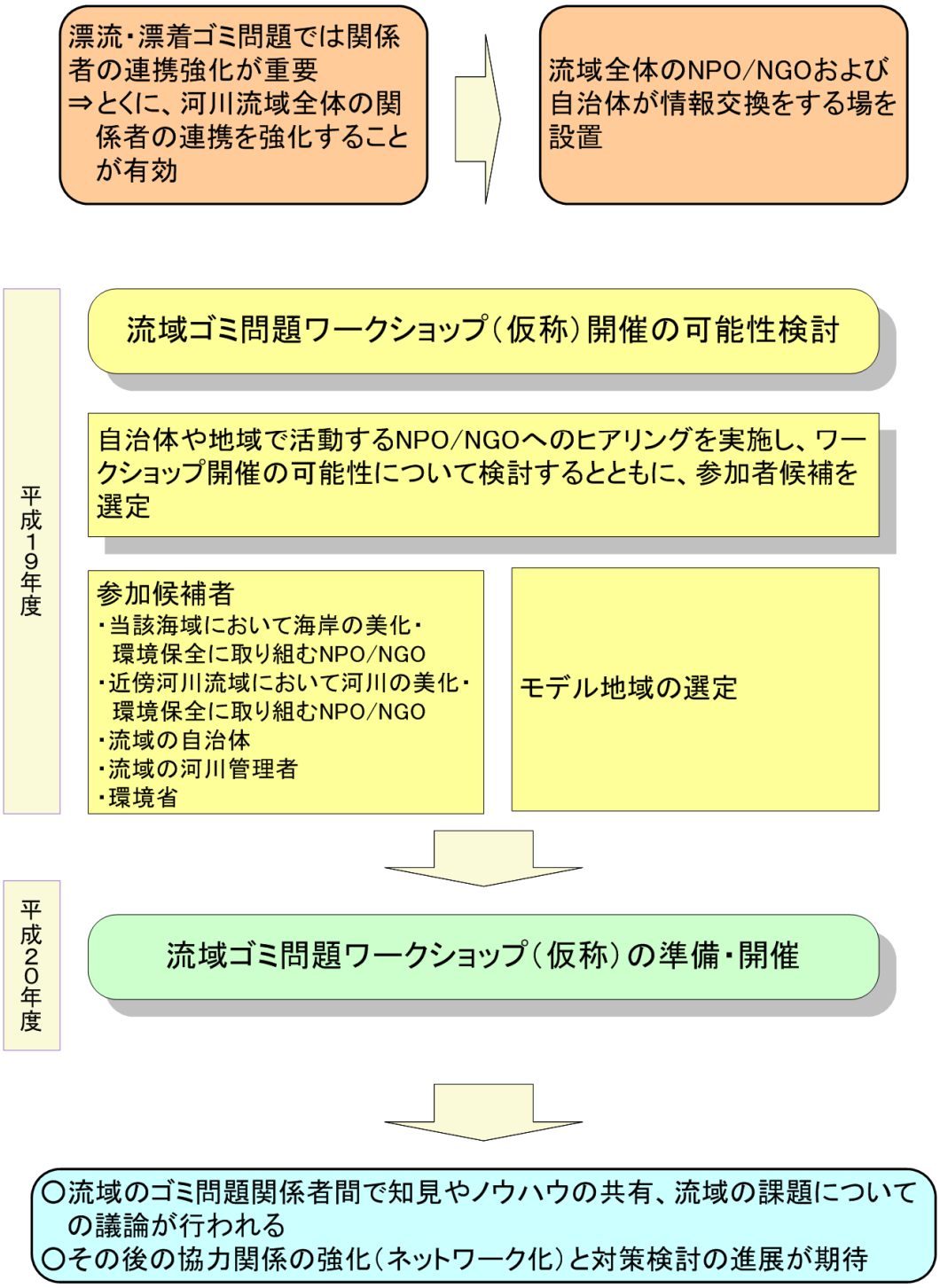

図 5.8-1　九頭竜川流域ゴミ問題ワークショップ開催の検討の概要

5.8.3 九頭竜川流域ゴミ問題ワークショップ[29]の概要

(1) ワークショップの位置づけ・目的

漂流・漂着ゴミは大きく陸域起源のものと海域起源のものとに分けられるが、一般的に陸域起源のものが約 8 割[30]を占めており、河川を通じて海域に流入していると考えられている。このため、漂流・漂着ゴミの対策にあたっては、沿岸域の取り組みだけでは不十分であり、流域全体での取り組みが必要と言える。

そのような考えのもと、平成 19 年度より、関係者間の情報や課題の共有および連携強化を目的とした「流域ゴミ問題ワークショップ」開催の検討を行ってきた。平成 19 年度の検討結果から、九頭竜川流域においてゴミ問題を取り扱う団体は複数あるものの、現時点ではそれらが協働して流域全体のゴミ問題の対策を検討するといった段階まで達していない状態と推察された。まずは少数の核となりうる団体から情報発信を行い、関心のある人々に受け止めてもらうことにより、裾野を広げ全体の底上げをしていくことが必要な段階にあると考えられた。

一方、平成 19 年に国土交通省主催で開催された「九頭竜川“水・交流サミット”」では、九頭竜川本流の流域自治体首長による意見交換等が行われ、ゴミ問題も含めた流域の課題について、今後、関係機関が協力して広域連携を進めていくことが行政レベルで確認されている。

そこで平成 20 年度には、ゴミ問題に関心のある民間関係団体を主たる対象として、

- 最終的にゴミが流れ着く河口や海岸の現状を知ってもらうこと
- 流域や河口、海岸でのゴミ問題への取り組みに対する相互理解を深めること
- 流域でのゴミ問題に関して、課題の整理と問題提起を行うこと
- 今後の対策や連携強化・協働に向けて緩やかなネットワークを形成していくこと

を目的とするワークショップを開催した。

なお、本ワークショップは、今後、毎年継続的に実施していくことを念頭に置き、将来的なプラットフォーム（協働して取り組みを進める母体）の設立を視野に入れるものとした。

(2) 開催日時及び会場

2008 年 11 月 30 日（日）13：00～16：30

福井商工会議所ビル 2F 会議室 A・B

(3) 主　催

環境省

(4) 共同呼びかけ人

行政主導のトップダウンではなく、流域の民間関係団体および行政の連携による取り組み推進という点を強調するため、以下の 2 団体を「共同呼びかけ人」になっていただいた。

- エコネイチャー・彩みくに

---

29 本ワークショップは厳密に言えばシンポジウムに近いものであるが、参加者による単なる情報共有ではなく、課題整理と問題提起を行い、今後の連携強化・協働に向けて一歩進んで行こうという願いを込めて、あえてワークショップという名称を使用した。

30 JEAN/クリーンアップ全国事務局 クリーンアップキャンペーン 2007 REPORT より

・ NPO 法人ドラゴンリバー交流会

(5) 協　力

福井県、坂井市

(6) 円卓着席者

今後の活動の核となりうる関係団体・機関および、流域における連携強化に際して参考となる話題を提供しうる団体として、以下の 10 団体・機関が円卓に着席し、情報提供および討議を行っていただくようにした。

A）流域・沿岸域において海ゴミ・河川ゴミ問題に関わる団体

・ エコネイチャー・彩みくに　阪本 周一 会長
・ NPO 法人ドラゴンリバー交流会　有塚 達郎 理事長
・ （社）勝山青年会議所　多田 輝雄 理事長
・ まちおこし 21　堀口 岩男 前代表

B）関係行政機関

・ 坂井市生活環境部　原田 幸治 部長
・ 福井県安全環境部　城越 芳博 企画幹
・ 福井県土木部河川課　北嶋 雅之 課長
・ 近畿地方整備局福井河川国道事務所　玉置 文志 副所長
・ 環境省　地球環境局環境保全対策課　田中 聡志 課長、小沼 信之 係長

C）ゲスト

・ JEAN/クリーンアップ全国事務局　小島 あずさ 代表
・ 美しい山形・最上川フォーラム事務局　平野 沢果 氏

ゲストは上記の通り、流域における連携強化に際して参考となる話題を提供しうる団体という視点から選定した。

JEAN/クリーンアップ全国事務局は、わが国における漂流・漂着ゴミ問題の第一人者的存在であり、「海ごみプラットフォーム」について紹介していただくとともに、漂流・漂着ゴミの問題点について説明していただくことにした。

美しい山形・最上川フォーラムは、広大な最上川流域（ほぼ山形県全域に相当）において、行政、団体、教育機関、企業、市民の連携・協力により、クリーンアップを含む各種活動を行っており、その体制は、同様に広大な九頭竜川水系（ほぼ福井県嶺北地方に相当）における関係者の連携強化にあたり大変参考になるものと考えた。美しい山形・最上川フォーラムに対しては事前にヒアリングを行った。その概要を資料編に掲載した。

(7) プログラム

時　刻	内　　容	発　表　者
13：00	開　会	
	冒頭挨拶・趣旨説明	田中 聡志 環境省地球環境局環境保全対策課長
13：05	海洋ごみの問題点	小島 あずさ JEAN/クリーンアップ全国事務局代表
13：20	漂着ゴミの削減・発生抑制に向けて ～福井県坂井市三国町における漂着ゴミの調査結果から～	小沼 信之 環境省地球環境局環境保全対策課係長

13：35	みくにの海から SOS	阪本 周一 エコネイチャー・彩みくに会長
13：55	ドラゴンリバー交流会の活動	有塚 達郎 NPO 法人ドラゴンリバー交流会理事長
14：15	九頭竜川への取り組み	多田 輝雄 （社）勝山青年会議所理事長
14：30	足羽川水源地に生きる民として	堀口 岩男 まちおこし 21 前代表
14：45	《休　憩》	
14：55	最上川流域におけるゴミ問題への取り組み	平野 沢果 美しい山形・最上川フォーラム事務局
15：10	九頭竜川における漂流・漂着ゴミ問題への取り組みについて	玉置 文志 近畿地方整備局福井河川国道事務所副所長
15：25	福井県の漂着ごみ対策	城越 芳博 福井県安全環境部企画幹
15：35	全体討議・まとめ ・討議テーマの紹介 ・「海ごみプラットフォーム」の紹介 ・全体討議 ・宣言の採択	〔座長〕阪本周一会長 （小島あずさ代表より紹介）
16：27	挨　拶	城越 芳博 福井県安全環境部企画幹
16：30	閉　会、アンケート	

(8) 事前の広報活動

本ワークショップ開催にあたっては、河川や海域の環境保全、ゴミ問題、リサイクル等に関っている、または関心を有する人（主として民間関係団体および流域自治体）を対象とし、より多くの参加者を募るため、以下のとおり広報活動を行った。

- 環境省、福井県、坂井市によるプレス発表および HP への掲載
- 関係団体、流域自治体、地域検討会委員に案内状とチラシ（図 5.8-3）を事前送付
- 流域自治体および旧三国町 4 自治会によるポスター掲示
- 円卓着席団体による関係者への参加呼びかけの依頼
- 地元新聞社への取材および事前告知（図 5.8-2）の依頼